

奨励賞

誰もが生きやすい世界を目指して

昨年秋のニュース番組で、前橋に住む七十代の茂木さんという全盲の男性が新前橋駅の階段から転落し、けがをしたという事故について取り上げられていました。茂木さんはいつも駅では点字ブロックを頼りにエレベーター前まで歩いていたそうです。事故が起こった日も点字ブロック上を歩いていたそうですが、人が集団で立ち止まっていたため、一旦点字ブロックを離れ、集団を迂回して、また点字ブロックを歩き始めたそうです。しかし迂回した時にエレベーターへと続く点字ブロックが分からなくなり、誤ってエレベーターの先にある階段へと続く点字ブロックをたどってしまい、階段から転落してしまったということでした。

このニュースを見てから、身近な道を確認すると、自宅から中学校までの通学路や駅までの道にも点字ブロックがあるということに気付きました。毎日のように歩いている道なのにそれまで全く気付いていませんでした。

それ以来、点字ブロックに意識を向けるようになりましたが、時々気になる事があります。例えば、散歩中の犬が点字ブロックの上でぐるぐる回ったり、立ち止まったりしていても飼い主の方は犬が飽きるまでそのままです。前から視覚障害の方が歩いて来たらわかるかもしれませんが、後ろから来た場合気付くことができるのだろうかと思います。また、複数で横に並んで歩いている人達がありますが、その中の誰かが点字ブロックの上を歩いていたりもします。この場合、みんなでおしゃべりに夢中になっていると視覚障害の方が歩いて来たときに気付くことができないかもしれません。

以前は私も点字ブロックを意識したことはなく、知らず知らずのうちに視覚障害の方の歩行を妨げていたかもしれません。私たちの無自覚のせいで、視覚障害の方が点字ブロック上を歩けず、歩道から外れてしまい、自転車や自動車と衝突してしまうということも考えられます。茂木さんのように階段から転落してしまうということも起こり得ます。

また、茂木さんにとって、駅のホームは不安との戦いだそうです。ホームは例えば欄干のない橋だとおっしゃっていました。私は自分が欄干のない橋を渡る場面を想像しましたが、目が見えている私でもとても怖いだろうなと思いました。私も駅を利用することがありますが、時々、ホームで点字ブロックの上にバッグなどの荷物を置いている人を見かけます。また、階段脇などの狭いスペースで点字ブロックの上に立っている人もいます。そういう人達はたいがいスマートフォンで話したり、操作をしていたりするので、そちらに気を取られていると視覚障害の方が歩いてきても気付くことができないと思います。そうすると

視覚障害の方が点字ブロック上を歩くことができず、ホームから転落してしまうという事故も起こってしまうかもしれません。

茂木さんは、点字ブロックが視覚障害者を誘導するためのものだとし、世の中になかなか理解してもらえないとおっしゃっていました。私たちひとりひとりが、点字ブロックが何のためにあるのかを理解し、意識することが大事だと思います。そうすることで、点字ブロックの上をむやみに歩かない、立ったりしないなどの行動につながると思います。

世の中には目の不自由な方、耳の不自由な方、足の不自由な方など、体に障害を持った方がいます。また、見た目ではわからなくても心臓にペースメーカーを入れている方、オストメイトの方などもあります。そういった障害や病気でハンディキャップを抱えた人も健常者も誰もが住みやすい世界になればいいなと思います。そのためにはひとりひとりが、自分の行動について意識することが大事だと思います。自分が今やっていることが誰かの妨げになっていないか、誰かを困らせていないかと意識するだけで世の中は変わってくるのではないのでしょうか。

そして自分のことばかり考えず、他者を尊重し、人を思いやる心を持つことも大事です。そうすれば自然と自分の行動に自覚と責任を持てるようになるし、困っている人がいれば手を差し伸べられるようになると思います。

障害を持った方も病気を抱えている方も健常者もみんなが生きやすいと思える世界になるように私自身も自覚を持って行動し、そして相手を尊重し、思いやりの心を持った人になりたいです。